

銀杏

発行所

〒792-0835

新居浜市山根町8番1号

曹洞宗瑞應寺専門僧堂

編集発行 瑞應寺

電話(0897)41-6563

FAX(0897)40-3127

<https://zuioji.jp>

毎月1日発行

(振替 01330-2-31918)

瑞應寺

印刷所 東田印刷株式会社

碧巖録物語独語〔二十九〕

後堂 門原 信典

第十九則「俱胝一指頭」寐語⑩

〔勝手に西遊記〕

〔評唱〕「六道四生は平等の法、牧童笛を吹いて前山を過ぐ」

普灯録 (二)

この「普灯録」は嘉泰普灯録と言います。「五灯録」という

中国南宋代に成立した五つの

禅宗史伝書の一つで、雲門宗の

雷庵正受禅師が嘉泰四年(一一一四)

の中に「六道四生平等法、

牧童吹笛過前山」とあります。

私達は例外なく三界六道四生

の中にあつて、自らの貪・瞋・

痴に振り回されながら生きて

います。しかし、牧童(み佛様)

と笛の音(教え・法)に従つて

目の前の山(人生)を行く牛の

最も有名なのは唐の玄奘三蔵(六〇二〜六六四年)です。

西遊記には、その三蔵法師

玄奘に同行してインドに赴く

三人?の猪八戒、孫悟空、沙

悟浄が登場します。これらは

人間の根本煩惱である貪・瞋・

痴の化身なのです。貪りは猪

八戒、瞋りは孫悟空、痴は沙

悟浄です。貪は人をだまして

も傷つけても手に入れたい我

慢出来ない心。瞋は目をつり

上げて怒る心。そして痴は自

分の努力ではどうにもならな

い事に思い悩む愚痴の心。こ

れらのイライラ・ムカムカ・

クヨクヨは全部自我が中心で

す。それに振り回されたら、

正しい車の運転も出来ません。

人生も同じです。玄奘三蔵は、

私達が断つことの出来ない貪・

瞋・痴を伴つて天竺(インド)にみ

佛様の教えを学びに行くので

す。しかしその旅の途中多くの

妖怪や魔物が邪魔をします。

何故か?実は妖怪や魔物は

人間の貪瞋痴を煽り、不平不

満、妬み、憎悪の心。さらに

を餌にして生きているのです。ですから三蔵法師がみ佛様の教えを広めると、貪が分かち合う心、瞋が優しい心、痴が感謝の心になり、どんな時でも仲良く助け合つて穏やかに暮らせるので、妖怪や魔物は生きていけなくなります。だから邪魔をするわけです。振り返ってみると、私達は生きていく限りこの猪八戒、孫悟空、沙悟浄を心の中に飼っているのです。いつどこで私にこの三人が現れて妖怪や魔物の餌食に成ってしまうかわかりません。

孫悟空は腕つぶしが強く、妖術にも長けていますが、天界の暴れん坊。いつもお釈迦様に怒られてばかりだったの、見返してやろうと、筋斗雲に乗って、超高速で飛びだしてしまします。「もうこまで来たからお釈迦様の目には届かないだろう」と、そこには大きな柱が並んでいました。「きつとここが天界の果てだ」と柱の一本に自分の名前を書いて、おまけにオシッコまで

してお釈迦様の元に帰り、我慢たつぷりに「どうです。いくらお釈迦様でもおいらの行く先はわからなかったでしょう」と言います。するとお釈迦様はニコツと微笑んで右の手の平を差し出しました。その中指を見ると、遠く離れたところで書いたはずの悟空のサインと、指の付け根にはオシッコの跡が残っていたのです。お釈迦様からは逃げられないと悟り、そして玄奘三蔵を妖怪や魔物から守るようお供を命ぜられるのです。

「山河大地、下、黄泉に徹し、万象森羅、上、霄漢に通ず」私達は天地いっぱいのみ佛様の手の平の中で守られています。それを示したのがお釈迦様の一本の指。ですから貪瞋痴の化身であるそれぞれに、八斎戒という戒法(猪八戒)、空を悟る(孫悟空、浄を悟る(沙悟浄)、とみ佛様の教えが名前になつています。

煩惱に輪転する因縁が発菩提心、佛法僧の三宝に帰依する心に育つのです。(続く)

「吸い込め詐欺」との戦い

「世界・ノータバコ・デー」にみる言葉のすり替え

東京巣鴨とげぬき地蔵尊高岩寺住職 医師 医学博士
東北福祉大学客員教授 日本禁煙学会役員
高岩寺 来馬 明規

【はじめに】

5月31日は国連の専門機関、世界保健機関(WHO)が定める「世界・ノータバコ・デー」です。そこで今回は「タバコ問題」のお話です。「タバコのない世界」は、健康で持続可能な未来のために重要です。しかし、その実現は容易ではありません。なぜなら、タバコによって暴利を得ている一部の人が、タバコ規制に強く抵抗しているからです。某タバコ会社の社長の報酬は時給に換算すると百万円超。規制に抵抗するのも無理もないことです。



「ニコチン悟道」への招待

しかも、WHOのタバコ規制を無力化するために、タバコ産業は詐欺的に振る舞っているのです。そこで筆者は、年々深刻化する特殊詐欺、いわゆる「振り込め詐欺」

に因んで、タバコ産業のタバコ規制妨害活動を「吸い込め詐欺」(1)と呼んでいます。

詐欺に取り込まれた人は、視野が狭窄し、欺瞞に気づくまで、救済を意図した善意の介入さえ敵視することがあります。「本稿が喫煙者を攻撃差別し不快」と思われる方がおられましたら、それがタバコで大儲けしている人々の「吸い込め詐欺」の巧妙さ、深刻さなのです。本稿は喫煙者を責めることではなく、「タバコの欺瞞」を見抜き、共有することを目的としているからです。

【WHOの立場とFCTC】

タバコは国際的な視点から、「非正規の危険な製品」「史上最悪の工業製品」と位置づけられています。WHOはタバコ会社・タバコ製品を「公衆衛生の最大の敵」として国際的な規制を目指し、2005年に発効した国際条約「タバコ規制枠組条約(FCTC)」を主導しました。(2) 締約国は現在183か国で、今年にFCTC発効20周年にあたります。

FCTCは「持続可能な開発目

標(SDGs)」目標3aにも入っていますが、皆さんはあまりご存知ないでしょう。(3) タバコ産業が広告原稿を出してメディアを沈黙させ、偽善的に振る舞い、見かけ倒しのSDGs協力をするなど、タバコの害が正確に伝わらないように「吸い込め詐欺」を働いているからです。「ノータバコ・デー」は

【禁煙の日ではない】

FCTCは「タバコ製品の使用禁止(フースモーキング)」でなく、製造の中止と根絶にむけた包括的な規制(タバコ・コントロール)を加盟国に求めています。ですから、5月31日の「世界・ノータバコ・デー」は「世界タバコ規制推進の日」と和訳するべきなのですが、なぜか日本では「世界禁煙デー禁煙週間」という名前にすり替えられ、WHOが意図した本来の主旨が弱められています。

つまり、本来は「タバコ製品の存在否定と生産中止」のはずが、「タバコを吸うのはやめておきましょう」になっているのです。【標語を書き換えて情報操作】

同様に「世界・ノータバコ・デー」でWHOが定めた標語も、日本政府が勝手にすり替えています。WHOの10年分の標語と和訳、そして同じ年に発表された我が国の禁煙週間の標語を、下の表に示します。

WHOはタバコ産業による虚偽の宣伝や妨害行為、未成年への売り込み、葉タバコ

年号	WHOのノータバコ・デー 標語	日本政府が書き換えた標語
令和7年(2025)	Bright products, Dark intentions, Unmasking the Appeal 【訳】 見た目の良いタバコ製品に邪悪な狙い タバコ産業の意図をあばく	令和7年4月末時点で未発表
令和6年(2024)	Protecting children from tobacco industry interference 【訳】 タバコ産業の妨害から子ども達を守ろう	たばこの健康影響を知ろう！ たばこCOPDの関係性
令和5年(2023)	Grow food, not tobacco 【訳】 葉タバコ栽培をやめて食糧を生産しよう	たばこの健康影響を知ろう！ 望まない受動喫煙のない社会を目指して
令和4年(2022)	Tobacco: Threat to our environment 【訳】 タバコは我々の環境への脅威	たばこの健康影響を知ろう！ 若者への健康影響について
令和3年(2021)	Commit to quit 【訳】 卒煙にしっかり取り組もう	たばこの健康影響を知ろう！ 新型コロナウイルス感染症とたばこの関係
令和2年(2020)	Tobacco Exposed: The secret is out 【訳】 曝かれるタバコ産業の欺瞞 秘密が明らかになった	2020年、受動喫煙のない社会を目指して たばこの煙から子ども達をまもろう
令和1年(2019)	Tobacco and lung health 【訳】 タバコと肺の健康	2020年、受動喫煙のない社会を目指して たばこの煙から子ども達をまもろう
平成30年(2018)	タバコは心臓を破壊する一健康を選択せよ、タバコはダメ 【訳】 Tobacco Breaks Hearts -Choose health, not tobacco	2020年、受動喫煙のない社会を目指して たばこの煙から子ども達をまもろう
平成29年(2017)	タバコは開発への脅威 【訳】 Tobacco -a threat to development	2020年、受動喫煙のない社会を目指して たばこの煙から子ども達をまもろう
平成28年(2016)	Get ready for plain packaging 【訳】 プレーンパッケージに備えよう(警告写真付で美的包装のないタバコ箱にしよう)	2020年、受動喫煙のない社会を目指して たばこの煙から子ども達をまもろう
平成27年(2015)	Stop illicit trade of tobacco products 【訳】 タバコ製品の不正取引をやめさせよう	2020年、スモークフリーの国を目指して 東京オリンピック・パラリンピックへ向けて

の意図を日本語に正確に訳さず、健康問題に限定

② タバコ産業の名前を削る

③ タバコ製品や喫煙行為を否定せず 受動喫煙注意を促す

栽培に伴う食糧・環境問題、SDGs被害や、不正取引(密輸)などを指摘し、健康問題だけではないタバコの様々な害悪をわかりやすく示しています。一方、日本では英語で示された標語

④ オリンピックやパナデミックに即した注意喚起にする

などに変更しています。

これはなぜでしょうか？

我が国では、ニコチンの依存性が生み出す巨額の利潤を背景に、タバコ産業が農業、政治、経済のみならず、公衆衛生政策の決定に大きな負の影響力を持っているからです。そのため、タバコ規制を主導するはずの厚生労働省には十分な権限も予算もありません。WHOに協力する姿勢を示しながら、タバコ産業の息がかかる省庁や政党の顔色を窺い、直接批判を避け、より穏やかに改変した表現にするしかありません。

これはFCTCに違背しています。2023年の世界タバコ産業干渉指数は、日本は世界90カ国中88位と、最低最悪のレッテルを貼られました。(4)

「ポスター改変が語る表現の差」

下の2枚の写真は、いずれも2023年の「世界・ノータバコデー」で発表されたWHO(右)と日本のポスター(左)です。

WHOはアフリカの少年が、タバコのシガラを食べる構図ですが、日本政府はタレントを起用して、禁煙マークを持たせています。WHOは生命の危機を全世界に叫び、日本は自国の喫煙者にお願する。同じ年のポスターでもこれほどの違いがあるのです。



「日本の禁煙デーは牛歩」

日本の標語は発表が遅いことも特筆に値します。WHOは5月のノータバコデーの標語を前年の11月から発表し、半年にわたって衆知啓発していますが、我が国では当日の2週間ほど前になってから発表されます。本稿編集集中の4月末現在、厚生労働省から正式な発表はありません。長年にわたってタバコ産業が行政政策に干渉し、タバコ規制を妨害してきた成果のひとつといえるでしょう。

「戒の表現を変えて希釈する」表現の操作によって本質が見失われてしまうことを、在俗の仏教信者が守るべき最も基本的な五戒(ごかい)を例にして、示してみます。(6)

不殺生戒

生き物を殺してはならない

不偷盗戒

↓いのちをたいせつにしよう

他人の所有物の盗みを禁ず

↓人の物をたいせつにしよう

不邪淫戒

不道徳な関係を禁ずる

不妄語戒

嘘をついてはいけない

不飲酒戒

↓正直をこころがけよう

酒を飲んではならない

↓お酒はほどほどにしよう

注意すべきは字句のすり換えやひらがな化によって、「戒律」の厳しさが薄められていることです。同様に、タバコ問題も、表現の操作で深刻さが隠されてしまっています。

○タバコ産業(×)たばこ産業・外来語のひらがな表記)は、タバコ問題について、言葉のすり替えや印象操作に血道を挙げているのです。「まとめ・私達は騙されない」

みなさんが思うタバコの害悪は、「吸い込め詐欺」によってまだまだ過小評価されています。まずはタバコ産業のウソを曝き、みなさんと正確な情報を共有することが議論の出発点ですが、本稿で示した詐欺的行為は、悪事のほんの一部に過ぎません。

タバコ問題の解決は、戦争や核兵器の廃絶と同様、人類が取り組むべき重要な課題です。それは単なる健康問題ではなく、

執着や煩惱からの解放という意味でも、仏道における「誓願」に他ならないと考えています。(7)そのために、まずは言葉を糺して妄語(うご)を断ち、「吸い込め詐欺」を終らせなくてはなりません。

【附記】

- (1)「吸い込め詐欺」を演題名とした筆者の講演抜粋。
a. 第29回日本小児科医学会総会シンポジウム「小児労働が吸い込め詐欺の原動力 作って死に売って儲け買っただまされ・吸って死ぬ」2018年6月23日パシフィコ横浜
b. 「ストップ吸い込め詐欺」わたしはだまされない福島県いわき市民公開講座2018年6月22日
c. 「タバコは吸い込め詐欺2018年10月17日横浜市日吉地区社会福祉協議会福祉講座」
(2) 発効して20年、日本も批准する国際条約「タバコ規制に関するFCTC」とは何かヤフー・ニュー

ス令和7年2月14日。

- (3) SDGs目標3は「健康的な生活と福祉の促進」が示され、妊産婦新生児死亡、感染症、成人病、精神疾患、薬物・アルコール、交通事故、家族計画、保険制度などの対策に加え、3aに「タバコ規制枠組条約の実施強化FCTC」が明示されています。SDGsハンドブック 筆者主筆 日本禁煙学会編2022年4月
(4) 日本政府はなぜ「タバコ産業からの干渉や影響」を排除できないのかヤフー・ニュース令和5年11月16日
(5) WHO 厚生労働省ホームページより
(6) 曹洞宗では在家も宗伯も「修証義」第三章「受戒入位」で示される十六戒の菩薩戒三帰戒、三聚淨戒、十重禁戒を保つことが高祖道元禪師のみ教えです。『岩波仏教辞典』第三版「五戒」P.322.「菩薩戒」P.959.
(7) 「曹洞宗宗門の禁煙化を願う」筆者 曹洞宗総合研究センター 学術大会紀要2010年。

春のご供養の準備を始めます。

私のお寺がある地域では、春と秋の二期に春供養、秋供養と称して市内のお寺さんが手伝い合って施食会を営みます。私のお寺では、その施食会法要にお参りするお檀家さん方に割子(せじ)弁当をご用意しておりますが、メニューはお寺の竹林に自然に生えてくる筍をふんだんに使用したものです。以前は、地区ごとのお檀家さんが持ち回りで調理にあたっていました。が、世代交代がなかなか上手くいかず、今では数名の有志を



一茎草

この冬は暖冬と言われながら、年が明けてから断続的に寒波が到来し、荒天や寒暖の差にご苦勞された方も多いのではないかと思います。この頃になつて、ようやく温かくなつてきました。この時期お寺では、春の彼岸会が終わり、年度末の事務処理をして、お釈迦様の誕生を祝う花まつりや、

募って調理しています。

道元禪師様が食材を調理するときの心構えを説かれた『典座教訓』に「凡そ物色を調弁するには、凡眼を以て観ること莫れ、凡情を以て念うこと莫れ。一茎草を拈りて宝王刹を建て、二微塵に入りて大法輪を転ぜよ。」というお示しがあります。一茎草とは、道端に生えている名もなき草のことで、取るに足らないもの。宝王刹は、宝で飾られた様な立派な寺院のことで、大法輪とは、仏の教えを、煩悩を打ち砕く車輪に喩えた言葉です。意約すると「食材を調理するときは、凡夫の目で見てはならない、仏さまの境地に立つて、一本の草を手取る様な些細な仕事でも、大寺院を建立するような気持ちで集中して行う。毛先ほどの狭い場所でも偉大な教えを説くように全身全霊を傾けて調理せよ。」という事です。

仏法では、一本の草でも一枚の野菜でも、この世界に存在するすべてのものに、仏の命が宿ると説かれています。それは、自然に生えてくる筈であつても、人間に食べられるために生えているのではなく、尊い命を育んでいるということです。私たちが生きるという事は、その尊い命を頂いていることです。改めてそのことを思えば、一茎草のように思われる毎日の些細なことでも、心して行うべきではないでしょうか。

春爛漫、清々しい気分でお過ごしください。

瑞應寺専門僧室 吉松聖博
令和七年四月一日〜十日



釈尊降誕会



■釈尊降誕会

四月八日(火)、暁天坐禪、堂内朝課に引き続き釈尊降誕会を厳修。金岡山主導師のもと、出班焼香、香湯を以て誕生仏灌浴。釈尊降誕の聖日を祝った。

当日法堂にて、ひかり幼稚園入園式、始業式が行われ、花御堂の誕生仏に甘茶をかけ、親子ともに花祭りをお祝いした。



金毘羅春大祭

■金毘羅春大祭

四月七日(月)(旧三月十日)、当山鎮守金毘羅様の春大祭を開催。

社殿にて、転読大般若祈禱と共に、当山梅花講員の詠讃歌奉詠が行われた。また、境内ではキッチンカーによる販売や福餅進呈などで賑わい無事円成した。



ひかり幼稚園入園式

瑞應寺公式ホームページ
を開設しました

4月より
公開しました



<https://zuioji.jp>

四月の日鑑

- 一日 祝禱
- 六日 日曜参禅会・前夜祭
- 七日 春季金毘羅大祭
- 八日 釈尊降誕会・入園式
- 十三日 日曜参禅会
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十八日 観音講(仏教勉強会)
- 廿日 略布薩

五月の予定

- 一日 祝禱
- 四日 日曜参禅会
- 七日 参玄会(八日迄)
- 十一日 日曜参禅会
- 十三日 浅川造船新入社員研修
- 十四日 楞嚴会啓建・衆寮諷經
- 十五日 配役行茶・入寺式
- 十五日 土地堂念誦・庫司点湯
- 十八日 祝禱小参人事行札・略布薩
- 十五日 日曜参禅会 観音講 仏教勉強会
- 廿五日 YFU日本国際交流財団参禅会
- 廿五日 日曜参禅会
- 卅一日 略布薩



鐘 声

新緑が美しい季節になってきました。すっかり春らしい気候になったと思いきや、初夏のような暑さの日もあり、私たちに常ならない「無常」を日々教えてくれています。瑞應寺では、4月に修行僧が2人下山し、山内の様子も変化しております。新たな旅立ちを祝うと共に、別れの淋しさも訪れます。「別れ」は多くのことを教えてくれます。その人との「出会い」が自分にとってどのようなものだったかを、改めて考える機会になります。そして、悲しみや辛さが強ければ強いほど、自分にとって大きく、大切な存在であったことを自覚させられます。しかしそのような大切なことに關しては、別れを迎えてからではなく、今ここで気づいていたいものです。何気なく過ごす日々の中で、あなたにとって大切なものはなんなのでしょう？常に変化していく日常の中で「当たり前」は存在しません。私たちは、いかに多くのおかけさまに支えられているのでしょうか。この力強い新緑の季節、そんなことを胸に、目の前の一つ一つを大切に過ごしていきたいものです。

受処主事 森香有